

第2学年 音楽科学習指導案

日 時 平成27年○月○日 (○) 第○校時
 対 象 第2学年○組 ○名
 学校名 ○○立○○中学校
 会 場 多目的室

1 題材名 「箏の音色や奏法を生かして、『さくらさくら』の前奏をつくり、演奏しよう」

2 題材の目標

- (1) 箏の音色や奏法、旋律に興味をもち、基本的な奏法を身に付けて演奏する学習や、表現を工夫して前奏をつくる活動に主体的に取り組む。
- (2) 箏の音色、平調子による旋律を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ取りながら、表現方法を工夫し、どのように演奏するか、前奏をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 音楽表現をするために必要な、基礎的な奏法などの技能を身に付けて演奏する。
- (4) いろいろな奏法や平調子による旋律などの箏の特徴を生かして、前奏をつくる。

3 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
①箏の音色や奏法、平調子の旋律に興味をもち、基本的な奏法を生かして演奏する活動に取り組もうとしている。(器楽)	①箏の音色やいろいろな奏法、平調子の旋律に注目し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ取り、どのように演奏するか思いや意図をもっている。(器楽)	①箏の特徴、基本的な奏法を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて演奏している。(器楽)
②箏の音色や奏法、旋律に興味をもち、前奏をつくる活動に主体的に取り組もうとしている。(創作)	②箏の音色や平調子の特徴から生み出される雰囲気を感じ取り、箏の奏法を生かした音楽表現を工夫して、どのように前奏をつくるか思いや意図をもっている。(創作)	②平調子や箏の奏法を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて前奏をつくっている。(創作)

4 指導観

(1) 題材観

本題材では、器楽と創作の二つの領域から箏を使った学習を行うこととし、次の二つを器楽と創作の領域の目標として設定する。中学校学習指導要領第5節音楽の器楽の指導事項は「A表現(2) イ 楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること。」、創作の指導事項は「A表現(3) ア 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。」である。そして、「A表現」の活動の支えになるものとして、〔共通事項〕から音色、旋律を取り上げ、音楽を知覚・感受させていきたいと考える。

まず、器楽では、生徒は小学生の時に箏の演奏を経験済みで、基本的な奏法は身に付いている。しかし、本題材では生徒自身が箏の特徴を生かして前奏をつくる活動を行うため、基本的な奏法だ

けでなく、いろいろな奏法（押し手・合わせ爪・スクイ爪・流し爪・ピッツィカート・トレモロ・かき爪）を学習することが必要になってくる。生徒の前奏をつくる活動の幅を広げるためにも、基本的な奏法をきちんと習得させ、いろいろな奏法へ発展させたい。箏は5面あるため、一人1面ずつ使用する。

創作では、箏の特徴の一つでもある旋律を生かすために、本題材ではすべての箏を平調子に調弦する。平調子に関しては、「(3) 教材観」でも示している。響きの心地よさを感じながら、前奏をつくる楽しさや喜びを感じてほしい。ただし、前奏をつくる中で二つのルールを設けることとする。第一に、「さくらさくら」の主な旋律に心地よくつなぐために、前奏の最後を五か十の弦、もしくは両方の弦を使って終わること、第二に、箏の特徴を生かすために、いろいろな奏法を二つ以上使用することとする。箏は多数ある和楽器の中でも、中学生でも簡単に音を出すことができ、日本人の心に響く音色と、箏にしかないいろいろな奏法をもつため、様々なイメージを音楽として表現しやすいと考える。注意点として、いろいろな奏法の中には技能を要するものもあるため、技能の必要な奏法を生徒が選択した場合は、十分な指導を行っていく。

(2) 教材観

ア 箏

日本の伝統的な和楽器は複数あるが、弦を爪で弾くことで音が鳴るため、中学生にも取り組みやすい和楽器である。また、基本的な奏法以外にも弦を押ししたり、こすったり、はじいたりといろいろな奏法があり、奏法次第で多くの音色を楽しめる楽器でもある。前奏をつくるうえで、比較的簡単に多くの音色を表現することのできる箏は、この題材に適切であると考えられる。

イ 「さくらさくら」日本古謡／長谷川 慎編曲

「さくらさくら」は、箏の手ほどきとして使われていた楽曲で、生徒たちが箏や三味線の練習曲として馴染みをもって接している楽曲である。日本人の心に響



く音色と情景を想像させる都節音階みやこぶしおんかいを使用した平調子の旋律が、日本的な特徴をもっているため、親しみをもちやすいと考える。本題材では、この平調子の旋律といろいろな奏法を生かし、「さくらさくら」の前奏をつくる。使用する教材は、教育芸術社教科書「中学生の器楽」の「さくらさくら」（独奏）である。

ウ 「乱輪舌（みだれ）」八橋 検校作曲

本題材の2時間目に、箏のいろいろな奏法がどのように楽曲の中で使われているか知るために、この楽曲を視聴する。押し手やトレモロ、流し爪など箏のいろいろな奏法がふんだんに盛り込まれており、前奏をつくるうえでも参考になると考える。使用する教材は、教育芸術社教科書準拠の「中学生の音楽鑑賞《器楽編》」のDVDである。

エ 図形楽譜（ワークシート記入例にて提示）の活用



前奏は7小節前後（6小節～8小節）を目安として、線で旋律を描く。いろいろな奏法の記入については、見本を示し、書かせていく。創作への苦手意識を少しでも取り除くために、適切な音符や休符の記入が求められる縦譜（縦書きの楽譜）は本題材では使用しないこととする。

次が、ワークシートの記入例とワークシートの図形楽譜を五線の楽譜で表したものである。

①どんな前奏をつくりたい? 


記入例① 鳥が2羽鳴いている 春とはいえ、肌寒い
風が吹いている 楽しくはない感じ

②図形楽譜 (いろいろな奏法を2つ以上使うこと)

創作手順	はじめ  終わり
①図形楽譜を書く	
②イメージを書く	
③弦と奏法を書く	

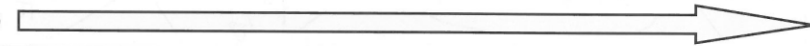
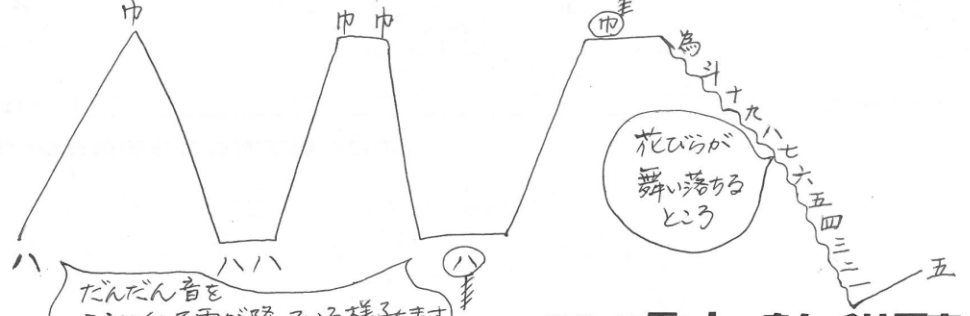
※最後の音は**五**か**十**、もしくは**両方**で!

記譜例① 


①どんな前奏をつくりたい? 

記入例② 雨が降っている 小雨 池に桜の花びらが一枚ずつ落ちる

②図形楽譜 (いろいろな奏法を2つ以上使うこと)

創作手順	はじめ  終わり
①図形楽譜を書く	
②イメージを書く	
③弦と奏法を書く	

※最後の音は**五**か**十**、もしくは**両方**で!

記譜例② 

5 年間指導計画における位置付け

器楽では第1学年で「三味線」、第2学年で「箏」を取り扱う。創作では第1学年では打楽器を使ったリズム伴奏づくり、第2学年ではリコーダーで旋律づくり、第3学年では循環コードを用い、8小節の旋律をつくる。

学年	第1学年		第2学年		第3学年
題材名	○三味線で「さくらさくら」を演奏しよう（器楽、4時間）	○曲の構成を生かしたリズム伴奏をつくらう（創作、4時間）	○民謡音階を使って、わらべうたをつくらう（創作、3時間）	○箏の音色や奏法を生かして、「さくらさくら」の前奏をつくり、演奏しよう（器楽、創作・4時間、本題材）	○循環コードを使って旋律をつくらう（創作、5時間）
主な内容	三味線で「さくらさくら」を演奏する。	「テキーラ」のリズム伴奏をつくる。	リコーダーでわらべうたをつくる。	箏の特徴を生かし「さくらさくら」の前奏をつくる。	循環コードを使って、8小節の旋律をつくる。

6 題材の指導計画と評価計画（全4時間扱い）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	■評価規準(評価方法)
1	<p>◆基本的な奏法を身に付けて、「さくらさくら」を演奏する。</p> <p>○箏について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書から、箏の歴史や種類を学習する。 <p>○基本的な奏法を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 演奏するための正しい姿勢を身に付け、爪の付け方を学習する。 巾から一の弦まで、次の弦に爪を押し付けるようにしながら、一音ずつ弾く。 <p>○基本的な奏法を生かして、「さくらさくら」を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 弦名を歌って、旋律とリズムを覚える。 押し手の部分だけ練習を行い、個人で「さくらさくら」を練習し、全員で何度か合わせる。 	<p>■箏の音色や奏法、平調子の旋律に興味をもち、基本的な奏法を生かして演奏する活動に取り組もうとしている。【ア①器楽】（観察）</p>
2	<p>◆色々な奏法を学習して、箏の様々な音色に親しむ。</p> <p>○「さくらさくら」を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 姿勢や奏法に気を付けて、「さくらさくら」を演奏する。 <p>○いろいろな奏法（合わせ爪・スクイ爪・流し爪・ピッツィカート・トレモロ・かき爪）を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業者の様々な奏法を見たり聴いたりして確認し、演奏する。 「乱輪舌（みだれ）」を視聴し、いろいろな奏法の使い方を聴き取る。 いろいろな奏法が、どのような桜の情景を思い浮かべさせるかワークシートに記入する。 いろいろな奏法ができるように、繰り返して練習する。 	<p>■箏の音色やいろいろな奏法、平調子の旋律に注目し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ取り、どのように演奏するか思いや意図をもっている。【イ①器楽】（ワークシート）</p>
3 本 時	<p>◆箏の特徴を生かし、イメージをもって、前奏をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回の復習として「さくらさくら」を全員で演奏する。 箏を鳴らしながら、いろいろな奏法を一つずつ復習する。 <p>○イメージをもって、前奏をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業者の創作例を聞く。 即興的に音を出しながら、個人で前奏をつくる。 できたところまで、前奏を演奏する。 	<p>■箏の音色や奏法、旋律に興味をもち、前奏をつくる活動に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>【ア②創作】（観察）</p> <p>■箏の音色や平調子の特徴から生み出される雰囲気を感じ取り、箏の奏法を生かした音楽表</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・再び、個人で前奏をつくる。 ・一人ずつ最後まで、前奏を演奏する。 	現を工夫して、どのように前奏をつくるか思いや意図をもっている。【イ②創作】(ワークシート)
4	<ul style="list-style-type: none"> ◆前奏を完成させて、「さくらさくら」を演奏する。 ・前回つくった前奏を見直して、個人で手直しする。 ○イメージとともに、前奏と「さくらさくら」を演奏する。 ・どのようなイメージをもって、前奏をつくったか述べて、一人で前奏を弾き、前奏に続き全員で「さくらさくら」を演奏する。 ・活動を振り返って、感想を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■箏の特徴、基本的な奏法を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて演奏している。【ウ①器楽】(演奏聴取) ■平調子や箏の奏法を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて前奏をつくっている。【ウ②創作】(ワークシート)

7 指導に当たって

(1) ねらいを明確にする視点から

- ア ワークシートと黒板にねらいを明確に示す。
- イ 学習活動の際に、もう一度ねらいを振り返る。

(2) 評価を明確にする視点から

- ア 関心・意欲・態度は、観察で評価する。一つのイメージに対して、音の高低や速さ、強弱の変化、音と音との間の取り方の発見、複数のいろいろな奏法を試すなど、様々な角度から前奏をつくる活動に意欲的に取り組んでいれば「十分満足できる」状況(A)とする。基本的な奏法といろいろな奏法を試奏することに留まっている場合は、「努力を要する」状況(C)とする。
- イ 創意工夫については、ワークシートの②図形楽譜の吹き出しの記述で評価する。イメージした情景とそれを表現するための図形楽譜への記述を具体的に書き、いろいろな奏法を二つ以上使用していれば「十分満足できる」状況(A)とする。ワークシートへの記述が図形楽譜といろいろな奏法を一つ使用している場合は、「努力を要する」状況(C)とする。

8 本時(全4時間中の第3時間目)

(1) 本時の目標

箏の特徴を生かし、イメージをもって、前奏をつくる。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点	■評価規準 (評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の復習として、全員で「さくらさくら」を2回ほど演奏する。 ・目標を確認する。 	・事前に柱を立てておく。	
	箏の特徴を生かし、イメージをもって、前奏をつくろう。		
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・全員で、色々な奏法を復習して、難しい奏法は何度か練習する。 ○イメージをもって前奏をつくる。 ・授業者が実際に演奏して、創作例を示す。 ・図形楽譜の説明を聞く。 	・作品に込めた思いも含めて、説明する。	■箏の音色や奏法、旋律に興味をもち、前奏をつくる活動に主体的に取り組もうとしている。【ア②創

	<ul style="list-style-type: none"> 前時までに考えた前奏のイメージ（前時間でワークシートへ記入済）を個人で確認し、追記や変更があれば記載する。 確認が終わった生徒から、前奏をつくる。 できたところまで、前奏を発表する。 再び、個人で前奏をつくる。 全員発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に生徒が考えた、いろいろな奏法からイメージされる情景をまとめて、ホワイトボードに貼っておく。 活動の見通しをもたせるため時間配分を伝える。 机間指導を行いながら、奏法や作品ができあがる過程を確認する。 生徒の作品のよいところを褒めて、自信をもたせる。 	<p>作】（観察） 〔評価するポイント〕</p> <p>A：一つのイメージに対して、音の高低や速さ、強弱の変化、音と音との間の取り方の発見、複数のいろいろな奏法を試すなど、様々な角度から前奏をつくる活動に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>B：音の高低の変化やいろいろな奏法を複数試奏し、前奏をつくる活動に取り組んでいる。</p> <p>C：基本的な奏法とさまざまな奏法の試奏に留まっている。</p> <p>《Cと判断される生徒への手だて》 生徒にどのようにつくりたいか直接聞き、いくつかの奏法を示す。</p> <p>■箏の音色や平調子の特徴から生み出される雰囲気を感じ取り、箏の奏法を生かした音楽表現を工夫して、どのように前奏をつくるか思いや意図をもっている。【イ②創作】（ワークシート） 〔評価するポイント〕</p> <p>A：イメージした情景とそれを表現するための図形楽譜への記述を具体的に書き、いろいろな奏法を二つ以上使用している。</p> <p>B：イメージした情景とそれを表現するための図形楽譜への記述を書き、いろいろな奏法を二つ以上使用している。</p> <p>C：図形楽譜への記述とさまざまな奏法を二つ使用している。</p> <p>《Cと判断される生徒への手だて》 他の生徒の前奏を聴き、次時に前奏をつくることのできるよう支援する。</p>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> 爪を片付け、柱を外す。 活動を振り返り、次回への見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 次回どうしたらよいか振り返らせる。 姿勢を正し、礼を尽くして終わるよう、挨拶の指導をする。 	

(3) 板書計画（黒板）

箏の特徴を生かし、イメージをもって、前奏をつくろう。	
<p>《本時の流れ》</p> <ol style="list-style-type: none"> ①前時までの復習 ②創作活動スタート ③できたところまで演奏しよう ④全員、前奏を発表しよう 	<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: 80%; margin: 0 auto;"> <h2 style="margin: 0;">拡大した図形楽譜</h2> </div>